

Endless Summer
来日クラブ狂騒曲

ベッカム様は永久に不滅ですか。

日韓W杯以来、ますます過熱し続ける海外サッカー人気。今年はずいぶんアルゼンチンや中国のクラブまで上陸した。いち大ブームの内実を、日本各地から徹底レポートする。

田邊雅之=文・写真
text and photographs by Masayuki Tanabe

山本雷太=写真
photograph by Raita Yamamoto



史上空前のブームから1年。またベッカム様が、そして海外クラブが来日する季節がやってきた。親善試合を行うチームの数は、一気に9まで増大。その規模も全国へと拡大した。彼等は何故に招かれ、各地域のファンは如何に反応し、そして何が残ったのか。

「民」による国際交流は
仙台の文化を変えうるか。

7月18日、梅雨明け間近の仙台では、ラッポの選手が練習に汗を流していた。昨年のキエーボに続き、イタリアのクラブがこの地を訪れるのは2度目となる。招聘したのは「フォルツァアズーリクラブ」という民間団体。W杯でイタリアのキャンプを誘致したのも同団体である。事務局長の佐藤章彦氏によれば、ラッポを招いた理由は次のとおりだった。

「W杯をきっかけにイタリアとは太いパイプができたわけですが、何事も継承しなければ意味はないと思います。今ではイタリアからクラブを招くだけでなく、市内のジュニアの選手を向こうのクラブの練習に参加させられるところまでこぎつきました。今年はラッポに来てもらいましたが、それは手段であって目的ではありません。主眼はあくまでも市民レベルの交流を深めることです。当然、興行や運営もプロにまかせずにボランティアベースで行っています。来年もイタリアからクラブを招く予定です。これからの実績を残して、仙台といえばイタリアが毎年来る街といわれるようにしていきたいですね」

市民レベルの交流を図るという点では、活動は満点に近い成功を収めている。クラブの会員による歓迎レセプション、子供を対象としたサッカークリニックや公開練習、市長への表敬訪問など、交流のメニューは非常に豊富だ。ラッポ側の意識も高い。滞在先のホテルでも、選手はいやな顔一つせずにサインのペンを走らせ続ける。メインスポンサーが倒産し主力組の流出が相次いでいるという台所事情もあるのだから、選手はファンサー

ビスにも必死になって取り組んでいた。

翌日行われたベガルタとの一戦は引き分けで、レベル的にも親善試合らしい内容となった。観客数は1万2000人。チケットが比較的高値だったことを考えれば、興行的には一応の成功を収めたといえるだろう。

ただし気になる点があったわけではない。ベガルタのファンが自らの選手に発した「真面目にやれー」という野次に象徴されるように、スタジアムにはことなく弛緩した――醒めた空気が漂っていたからだ。

それは市内にもあてはまる。ラッポの来訪を告知する看板やポスターは皆無に近く、地域全体で盛り上げようという雰囲気は感じられなかった。フォルツァアズーリクラブが精力的に活動していた分だけ温度差が浮き上がる。印象的だったのは、乗り合わせたタクシーの運転手がぼそりと呟いた言葉である。「私はサッカーを見に行こうとは思わないんです。ベガルタは試合を諦めてしまうようなところがあるし、それだったら野球を見たほうがましです。仙台は昔ロケットがあったし、福祉大出身の佐々木（主浩）や東北高のダルビッシュが頑張っているじゃないですか。サッカーはW杯の時盛り上がりましたが、J2に落ちてからは苦しいみたいです。W杯開催の遺産を活かせるか否か。仙台という街は、野球文化という見える敵とも戦わなければならないのかもしれない」

ローカルな情熱を支える
橙色のグローバルな「夢」。

青々とした水田を眺めながら新幹線に揺られること2時間。改札を抜けた途端に視界に飛び込んでくるのは鮮やかなオレンジ色だ。駅前の繁華街から裏通りの駐車場に至るまで、あらゆるところにアルビレックスを応援する機が立っている。街ぐるみで盛り上げようとする意気込みが、ひしひしと伝わってくる。アルビレックスはボカ・ジュニアーズ、そしてバレンシアと対戦する。J1に昇格した



「アズーリ仙台キャンプ」2004記念大会(7月19日 仙台スタジアム)

ベガルタ仙台 vs. S.S.ラッポ

ファンの比率は半々くらい。東京から来たという女性もいた。



ワールドチャレンジマッチ2004
(7月27日 新潟・ビッグスワン)

アルビレックス新潟 vs.
ボカ・ジュニアーズ

純粋な地元ファンの様子はボカの
選手の心を打ったという。アルビ
レックス印の日本酒も好評発売中。

ばかりのクラブ、しかも地方のクラブとしてはかなり異例である。地元の人々は、この出来事をどう受け止めているのだろうか。仕事の合間を縫って体験談を語ってくれたのは、観光案内所に勤める50代の女性だった。

「外国のチームが来るのは知っていますよ。きっと盛り上がるんじゃないですか？ アルビレックスができて新潟は本当に変わったんです。子供の声援をきっかけに、いつの間にか自分も一緒に応援してしまう。こんな経験は初めてだし、新潟には野球のチームがなく、スポーツといえは競馬や競輪だったから、私のような人は多いんじゃないですか」

それに新潟の選手はみんな一生懸命でしょう？ だから負けた時も大きな拍手がおきるんです。熱狂的に応援するように変わったのは、W杯の経験も大きいと思います。あの頃の私は驚いただけでしたが、今となっては「ああ、これからW杯が来るんだってなあってよく思います」

主催者側のアルビレックスでは、ビッグスワンで練習を終えたばかりの反町監督が、その意義について説明した。

「目的はエキシビションや調整ではなく、あくまでもチームの課題を見極める強化にありますが、正直な話、5年前には考えられなかったマッチメイクです。嬉しい限りです。これはアルビレックスがビッグクラブに近づきつつあること、新潟が世界的にも注目される都市になりつつあることを反映していると思います。新潟の皆さんにはいつも熱心に応援してもらっていますが、Jリーグでは味わえないサッカーの奥深さを感じてもらえる、いい機会にもなるのではないのでしょうか」

果たして7月27日に行われたボカ戦は、火曜日だったにもかかわらず2万9000人、5日後のバレンシア戦は3万4000人を動員した。しかも観客の9割は、共にアルビレックスのファンである。これはファンの関心の対象が海外のクラブではなく、完全におらが町のクラブにあったことを示している。

このような地元密着型の発展を遂げる一方で、アルビレックスは、シンガポールのリーグにチームを派遣するなど独自の路線も打ち出してきた。親善試合が延長戦上にあることは言うまでもない。ポカに競り勝ち、今シーズンのホーム初金星に沸く新潟では、ファンの素朴な情熱、W杯を体験したいという願望、そしてクラブの海外戦略が不思議な形で融合していた。

新たな飛躍への切り札は「アジア」の秘策にあり

台風の影響が残る鉛色の空の下、ホバークラフトで大分市内へ向かう。8月1日はレアル・バルサ、バレンシアが試合を行う「スバニッシュデー」だが、トリニータが招くのは上海申花である。中国リーグを制しているとはいえ、日本での知名度はきわめて低い。悪い予感的中した。ビッグアイに足を運んだのは1万3000人。会場が大きいだけにスタンドに空席が目立つ。唯一の救いは、トリニータが大量リードした後も、双方のファンが真剣に応援し続けたことだった。

翌日、市内で会った女性の証言は衝撃的だ。「私は年間バスを持っているし試合にも行ったけど、友だちはほとんど行かなかった。理由？ 簡単よ、上海なんて知らないじゃない。みんなレアルの試合をTVで観ていたわ」。「中央」の影響力の大きさを改めて思い知らされる。繁華街を歩いていても若手の違和感を覚えた。スタジアムにあれば熱いファンがいたのに、トリニータに結びつくものがほとんど見つからないのである。94年の設立以来、アルビレックスと似たような道を歩んできたクラブだけに、この静けさには拍子抜けしてしまう。さらに言うなら、地域やチームの特徴も新潟ほど鮮明ではなかった。

しかし、総務企画部の古澤進二氏のコメントは、強い自信と説得力に満ちていた。「たしかに興行的には観客数は多いほど助かります。でも私たちが考えていたのは、一過

2004Jリーグプレシーズンマッチ(8月1日 大分・ビッグアイ)

大分トリニータ vs. 上海申花SVA

険悪な雰囲気になったアジア杯と違い、会場のムードは友好的。



Raila Yamamoto



FCバルセロナ ジャパン ツアー 2004 (8月1日 国立競技場)

鹿島アントラーズ vs. FCバルセロナ
サッカーファンを魅了したロナウジーニョ。女性のハートまで射抜いたかどうかは不明。

来日クラブ一覧表

チーム名	試合日	対戦相手と結果	試合会場 収容人数	入場者数	寸評	評価
S.S.ラツィオ	7/19	ベガルタ仙台(2-2)	仙台スタジアム(19,694)	12,511	ファンサービスはOK	B+
	27	ヴィッセル神戸(4-0)	神戸ウイングスタジアム(34,000)	21,582	これぞレアルの底力	A-
インテルミラノ	27	浦和レッズ(0-1)	埼玉スタジアム(63,700)	57,633	2軍のインテルに唖然	C
ボカ・ジュニアーズ	27	アルビレックス新潟(1-2)	新潟・ビッグスワン(42,300)	28,857	南米王者、新潟に沈む	A-
レアル・マドリ	29	ジェフ市原(3-1)	国立競技場(60,057)	51,840	ベッカム様は出ただけ	A
	8/1	東京ヴェルディ(4-0)	味の素スタジアム(50,000)	49,542	マルセイユ・ターン!!	A+
バレンシア	1	アルビレックス新潟(2-5)	新潟・ビッグスワン(42,300)	34,287	スペイン王者の名折れ	C+
	4	鹿島アントラーズ(1-0)	国立競技場(60,057)	46,407	「1000円の価値もない」	C
FCバルセロナ	1	鹿島アントラーズ(5-0)	国立競技場(60,057)	55,251	ロナウジーニョ大爆発	A+
	4	ジュビロ磐田(3-0)	静岡・エコパ(51,349)	41,557	ジュビロも歯が立たず	A+
上海申花SVA	1	大分トリニータ(1-6)	大分・ビッグアイ(43,000)	13,364	結果よりも意義に注目	B+
レジーナ	5	名古屋グランパスエイト(1-1)	名古屋・瑞穂競技場(27,000)	17,684	頼みの俊輔はアジア杯	C
	8	横浜F・マリノス(1-2)	横浜国際競技場(72,370)	35,751	ラフプレーで負傷者続出	C-
ASローマ	8	FC東京(0-0)	味の素スタジアム(50,000)	34,353	え、トッティはどこなの?	C

性のブームに乗るのではなく、将来にとって意義のある試合を行うことでした。大分はチームが発足したときから韓国と協力関係を維持してきましたし、次は中国と関係を結ぼうということ、あえて他の海外クラブのオフ・アールを断って上海と試合を組みました。

実際、コンパスで円を描いてみれば、東京よりも韓国や中国のほうが近いわけですし、W杯を踏まえてファンや市場を開拓していくという点で、アジアは大きな可能性を秘めています。財政面や地域色の打ち出し方まで含めて、新たな目標であるJ1優勝への第一歩としては、正しい選択だったと思います。

帰路につく頃、空はすっかり晴れ上がっていた。空港の搭乗口を見上げると、上海線の再就航を告げるパネルが控えめに、そして少し誇らしげに掲げられているのに気が付いた。

草の根の国際交流、郷土愛を支える海外戦略、未来を見据えたアジアへの展開。地方における親善試合が独自の思惑を反映していたのに対し、純粋なエンターテインメント合戦と化した関東圏の試合は、勝ち組と負け組がはっきり分かれる結果となった。シヨビズに徹したレアルや、期待を大きく上回るプレーを披露したバルサが前者だとすれば、後者の筆頭はバレンシアである。レアルに目もくれないといった純粋なバレンシアファンは、「こんな試合は10000円の価値もない。TVで十分だ」と吐き捨てた。同様の声はインテルやレジーナ、ローマ戦でも聞かれた。

しかし実は、この幻滅こそが今夏の最大の収穫なのである。親善試合に多くを期待するのはただでさえ難しい。しかも選抜肢が増えれば増えるほど、顧客を満足させられないクラブや選手は淘汰されていく。それは人気に翳りが見えるベッカム様も例外ではない。

来夏はマンU、ユベ、バイエルンが上陸すると噂される。規模においてもファンの成熟度の点でも、W杯に端を発した海外サッカーブームは確実に新たな段階へと移行した。

クズった
その場で
すぐハンマー!



ガズって楽しい
スクラッチ!



当せんはしっかり調べて、しっかり換金。

財団法人 **日本宝くじ協会**
http://www.takarakuji.nippon-net.ne.jp

●宝くじの収益金はみなさまの身近なところで役立っています。
●外国発行の宝くじを、日本国内において購入することは、法律で禁止されています。

新ゲーム登場!

エンジェル5

第1872回 東京都宝くじ

1等 **20万円×170本**
発売期間 8/18*~8/31*

第2033回 近畿宝くじ

1等 **20万円×136本**
発売期間 8/18*~8/31*

第1916回 関東・中部・東北自治宝くじ

1等 **20万円×391本**
発売期間 8/18*~8/31*

第1724回 西日本宝くじ

1等 **20万円×153本**
発売期間 8/19*~9/1*

「宝くじの日」記念特別番組

所さんの幸運ジツワ! 夢の3億円! スペシャル2004

9/2(木) PM4:00~PM4:55 日本テレビ系列にて全国ネットで生放送